

## 「賀川豊彦ら、先人たちから受け継ぐべきもの」

広岡浅子(NHK連続テレビ小説「あさが来た」の主人公のモデル)は100年前、御殿場の別荘では女性指導者の養成を行い、東山荘の献堂式では女性と共に日本社会の変革を行うことを青年に託しました。

当時、御殿場には多くの外国人の別荘も建てられましたが、そのうちの一人、米国人宣教師のジョージ・ワシントン・ポールデンは、昭和大恐慌や繭の価格の暴落で借金に苦しむ農民救済のために「二岡養豚組合」を結成。そこで、養豚養鶏とハム・ソーセージ作りを農民たちに教えました。そして農民たちは、ポールデンの助けを得て「御殿場養豚加工組合」を設立するに至りました。

同じころ、御殿場の高根の農民たちは、賀川豊彦を招いて「御殿場農民福音学校」を建設しました。賀川はその後、東山荘で行われた第47～49回夏季学校(1937～39年)に講師として来荘しています。青年にキリストの福音を語った賀川は、農民福音学校で託児所(現高根学園保育所)も開設しました。また、農協の基本理念である立体農業論(多角的農業経営)の実践にも努め、旧農協のマークを考案したと言われています。新約聖書に記された「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」という言葉をもとにデザインされ、「協」の字の偏(左側)には麦の茎と同時に、十字架を見て取ることができます。

第二次世界大戦での敗戦によって、日本社会は民主化が進められていきました。御殿場の別荘地は森へと戻っていきましたが、先人たちが東山荘での学びを日々実践し、社会改良と自己変革のために労した歴史は今も残っています。先人たちの精神を受け継いで「真の豊かさ」を求めていくことが、次の100年も果たすべき東山荘の使命であると考えます。

YMCA東山荘所長 堀口 廣司



旧農協のマーク